

八雲と同時期来日、親交も

ローエル功績 観光に

松江

活用意義 小泉凡さん講演

明治の文豪・小泉八雲（ラフカディオ・ハーン、1850～1904年）と同時期に来日し、親交があった米国の天文学者パーシバル・ローエルの研究会が5日、松江市内であった。特別講演した八雲のひ孫で、県立大短期大学部教授の小泉凡さん（54）は、2人の思いや功績を広めるとともに、観光資源などとして活用する意義を説いた。

ローエルは1883（明治16）年に来日し、日本文化や思想を研究した。日本文化を紹介した著書「極東の魂」は、八雲が日本に興味を持つきっかけになった

開館3周年前に大台



松江・中村元記念館へ入

松江市出身のインテリ

とされる。研究会は、研究者でつくる日本ローエル協会（東京都）が、2～3年置きに開催。今回は約40人が参加した。